

〈みずほ〉の公募投資信託（ファンド）の評価の考え方

※以下、当資料では投資信託のことを「ファンド」と表記しています。

〈みずほ〉では、定性、定量の両面からファンドの運用面におけるクオリティーを評価しています。
 定性評価では、主に ①運用会社 ②運用チーム ③運用プロセス等の3点から評価を行います。
 定量評価では、過去の運用実績の数値を基にパフォーマンス等を評価しています。

パフォーマンス等の定量評価はファンド評価における重要な要素ですが、優れたパフォーマンスを継続させるためには、運用会社の理念と強固なビジネス基盤、高い運用力を持続させるチーム体制、運用の継続性を担保する運用プロセス等が不可欠であるという考えの下で、〈みずほ〉では定性評価についても力を入れています。

＜ファンド評価における重要なポイント＞



ファンド評価については、取扱ファンドの選定時に実施しているほか、取扱開始後も定期的な実施（モニタリング）しています。
 調査結果を踏まえてパフォーマンス改善に向けた対応策の検討を要請する等、お客さまへ提供する商品の質を保つよう努めています。
 ※ファンドの選定においては、定量評価で絞り込みを行い、運用状況が良好と考えられるものに対し定性評価を行っています。モニタリングにおいては、定量評価で一定の基準に該当したものに対し定性評価を行っています。

定性評価について ①運用会社の評価ポイント

➤ 経営方針やビジネス状況、財務状況、人事制度等を確認することで、パフォーマンスの継続性をサポートできる体制かどうかを評価します。



運用会社の特徴をつかむ

運用会社



＜運用会社を評価する主なポイント＞

① 経営方針・ビジネス状況

運用力を強化するための施策を十分に講じているか？ など

② 財務状況

会社の安定性や収益性に問題がないか？ など

③ 人事制度

優秀な人材を獲得・維持できる仕組みであるか？ など

会社の特徴を把握し、強み・弱みを評価

＜例：ポジティブな評価＞

- 安定した収益と運用資産残高を有する
- パフォーマンスを第一に考え、運用者を積極的にサポートしている

＜例：ネガティブな評価＞

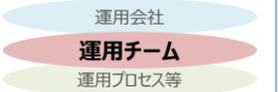
- × 運用に関するインフラ整備等の運用力強化に対する投資に消極的
- × 運用実績を考慮しない評価制度

ともに挑む。ともに実る。

MIZUHO みずほ証券

定性評価について ②運用チームの評価ポイント

➤ 良好なパフォーマンスにつながるチーム体制、チームカルチャー、チーム内のコミュニケーションが適切なものになっているかを確認・評価します。



運用チームの特徴をつかむ

運用チーム



＜運用チームを評価する主なポイント＞

① チーム体制

リーダーはどのような人物か？ チームメンバーの経験年数は？ など

② チームカルチャー

チームが大事にしている価値観は何か？ など

③ コミュニケーション

運用プロセス等の向上を企図した活発なディスカッションがなされているか？ など

チームの特徴を把握し、強み・弱みを評価

＜例：ポジティブな評価＞

- 経験豊富なメンバーが揃っている
- チームとしての実績が豊富
- 特定のメンバーに依存しない体制

＜例：ネガティブな評価＞

- × チームリーダーがパフォーマンス改善への意識に乏しい
- × チームの離職率が高い
- × メンバーの低いモチベーション

定性評価について ③運用プロセス等の評価ポイント

➤ どのような投資哲学や運用目標のもと運用しているかや、運用プロセスに優位性があるかを確認・評価します。



運用プロセス等の特徴をつかむ

運用プロセス等



＜運用プロセス等を評価する主なポイント＞

① 投資哲学

どのような信念に基づいてリターンを出そうとしているか？（プロセスの根幹）

② 運用目標

どのような目標をめざして運用しているか？（パフォーマンスの良し悪しを判断する基準）

③ プロセスの優位性

一貫性・継続性のある運用プロセスか？ など

プロセスの特徴を把握し、強み・弱みを評価

＜例：ポジティブな評価＞

- 長期にわたり投資哲学を徹底している
- 明確かつ規律あるプロセス
- 独自の分析で銘柄発掘に優位性がある

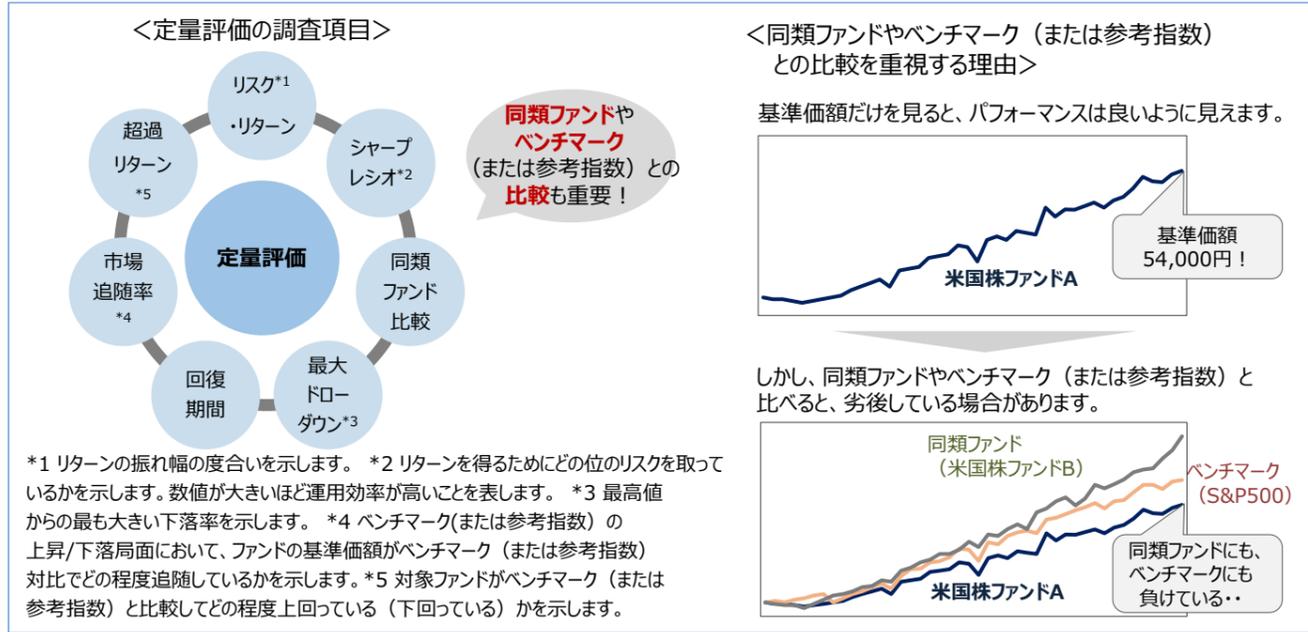
＜例：ネガティブな評価＞

- × 明確な運用目標、運用哲学を持っていない
- × 局面によって場当たりに行動が変化する
- × 継続的な改善が行われていない

※定性評価は、上記の各評価項目を基に、総合的に判断しています。上記の例は一部を抜粋したものであり、そのすべてを説明しているものではありません。
 ※上記は〈みずほ〉のファンド評価の考え方を示したものであり、すべての取扱ファンドに対して上記の評価を行っているものではありません。

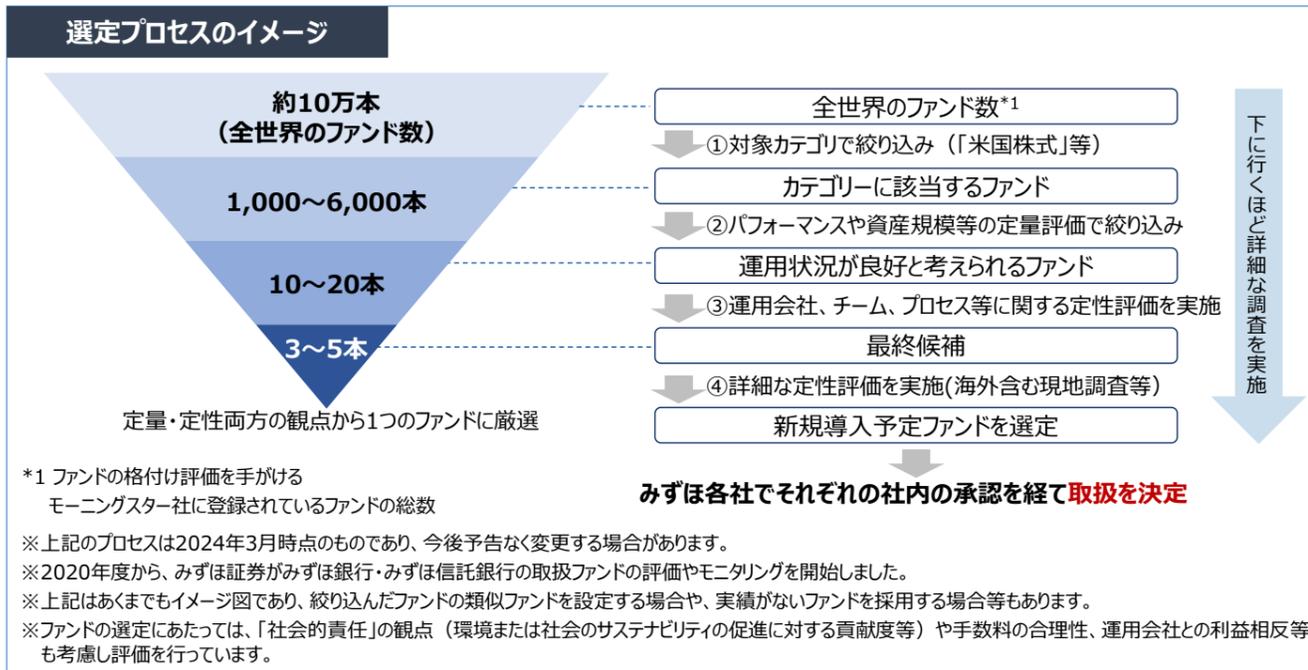
定量評価について

- ▶ 定量評価については、以下の「定量評価の調査項目」に示した項目を主に確認しています。
- ▶ 確認にあたっては、同類ファンドやベンチマーク（または参考指数）対比のパフォーマンスを重視しており、その市場の平均よりも優れた運用か、他のファンドより優位性があるかを評価することができます。



（ご参考）〈みずほ〉のファンド選定

- ▶ 〈みずほ〉では、全世界の約10万本のファンドから、対象カテゴリ内での定量評価（パフォーマンス分析）や定性評価により、お客さまにお勧めできると考えられるファンドを厳選しています。
- ▶ ファンドの新規取扱においては、厳正なプロセスに基づき採用を決定しています。



※上記は〈みずほ〉のファンド評価の考え方を示したものであり、すべての取扱ファンドに対して上記の評価を行っているものではありません。

（ご参考）〈みずほ〉のファンドモニタリング

- ▶ 〈みずほ〉では、取扱ファンドが、引き続きお客さまの資産形成に資する商品かどうかを継続的に検証しています。
- ▶ 調査結果を踏まえて、パフォーマンス改善に向けた対応策の検討を要請する等、お客さまへ提供する商品の質を保つよう努めています。

モニタリングプロセスのイメージ

モニタリング対象ファンド	〈みずほ〉の取扱ファンド*1
モニタリング周期	主に月次
評価方法	定量評価+定性評価*2
モニタリング結果の活用	運用会社に対するパフォーマンス改善に向けた対応策の検討を要請等

- *1 取扱ファンドのうち、販売可能な銘柄に対しモニタリングを行っています。
*2 月次で定量評価を行い、一定の基準に該当する場合に定性評価を実施しています。すべてのファンドに対し行っているものではありません。
※運用体制等の変化について、継続的にモニタリングを実施しファンドへの影響も確認しています。
※2020年度から、みずほ証券がみずほ銀行・みずほ信託銀行の取扱ファンドの評価やモニタリングを開始しました。
※上記のプロセスは2024年3月時点のものです。今後予告なく変更する場合があります。

投資信託にかかるリスクと費用

【投資信託にかかるリスクについて】

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります）に投資しますので、市場環境や組入有価証券の発行者にかかる信用状況の変化等により基準価額は変動します。したがって、投資者のみみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、投資元本を割り込み、損失を被ることがあります。

【投資信託にかかる費用について】

当社取扱の投資信託のご購入にあたっては、ご購入金額に対して最大3.3%（税込み）の購入時手数料をご負担いただけます。また、換金時に直接ご負担いただく費用として、換金時の基準価額に対して最大0.5%の信託財産留保額をご負担いただく場合があります。投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用として、運用管理費用（信託報酬：信託財産の純資産総額に対して最大2.09%（税込み・年率））およびその他の費用をご負担いただけます。その他の費用は定率でないもの、定時に見直されるもの、売買条件等に応じて異なるものがあるため、当該費用および合計額等を表示することができません。なお、お客さまにご負担いただく手数料等の合計額（上限額等を含む）については、ご購入金額や保有期間等に応じて異なりますので表示することができません。

※上記は、2023年10月2日時点においてみずほ証券にてご購入いただける公募国内投資信託について記載したものです。外国投資信託の場合も、購入時手数料や換金時手数料のほか、運用管理費用等、保有期間中に間接的にご負担いただく費用があります。また、上記は今後予告なく変更される場合があります。ご投資にあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）または投資法人説明書（交付目論見書）ならびに目論見書補完書面などをよくお読みいただき、ご自身でご判断ください。

〈ご留意事項〉

本資料は情報提供を目的としたものであり、法令に基づく開示書類ではありません。

MG5290-240313-07